

第 17 回市立中学校のあり方検討委員会 会議録（概要）

- 1 日時 令和 6 年 2 月 27 日（火）午後 7 時 00 分～午後 8 時 30 分
- 2 会場 千手中央コミュニティセンター 千年の森ホール
- 3 出席者
 - (1) 委 員 21 名
 - (2) 事務局 7 名 渡辺教育長、鈴木教育文化部長、玉村教育総務課長、細木学校教育課長、藤田指導管理主事、山岸教育総務課長補佐、小野塚教育施設係長

4 会議概要

- (1) 開会あいさつ（雲尾委員長）
- (2) 議事

以下のとおり審議が行われた。

発言者	発言概要
-----	------

① 検討委員会の会議日程及び内容等について（令和 6 年 2 月 27 日現在）

事務局 （資料に基づき説明）
（質問等なし）

② 提言内容の確認

委員長 （提言の修正内容について説明）
（質問等なし）

③ 出席委員からの意見感想発表

委員 回を重ねてたくさんの方のご意見を伺って、皆さんが地域の子供たちのためにいろんなことを考えてくださっているということが分かり、とてもありがたいと思った。自分の子供たちが卒業した後でも、地域の子供たちがよりよく活動できるように、何か自分ができることをしていきたいと考えたので、この案が出来上がり、これからどうなっていくかしっかり見守って、何かお手伝いできることがあればしていきたいと感じた。

委員 提言がひとつの形になって本当によかったと思う。今回の提言がぼんやりしたものでよかったなということと、これを形にしていこうとするとロードマップが大事になると思う。委員会に参加できてよかったと思っている。

委員 自分の出た小学校、中学校などは全部統廃合でなくなってしまった。学校がなくなることは地域にとって大変なことである。そういった意見を踏まえながらこの会に参加したときに、大量の資料をもらい本当にまとまった話ができるのかと危惧していたが、委員の皆さん、委員長のおかげでいい提案書ができたと思う。これが 100%ではないと思うが、これから肉づけをしたり、いろんな方に意見を聞きながら、またさらによりよい中学校ができればいい

と思っている。この会議ができたおかげで、市民の関心も高まってきているのは事実であり、今後とも一生懸命やっていきたいと考えている。

委員 第2次学区適正化では、自分の地域の中学校が他の中学校と統合するという案で、統合先の学校から離れた子は負担が多いので何とかならないかなと思います、考える会を立ち上げて地域で話し合いをしている。実際この会に参加してみても、自分の地域の学校が統合するとかそういうことではなく、子供たちのことを一番よくするにはどういったことがいいのか、これからどういった方向に十日町市は進んでいったらいいのかというのを検討する会だと分かり、本当にこういった提言が形になってよかったと思う。こういう方向に向かっていくということがひとつ十日町市として決まった中で、自分の地域としてはこれからどうしていくか今後も考えていきたい。

委員 学校を統合するとか、全部閉校して新しい学校を造るとか、そういった方向性を出すに当たって、市民の皆さんが知恵を出し合うということはとても大事なことだと思い参加してきた。先生の数など現実的な問題もあるが、一方でこの先、学校と地域の関係や、十日町であれば小学校、中学校という小中一貫教育の中で、小学校と中学校あるいは高等学校という縦の時間の流れはどうあるべきか、そういったことも今後も継続して議論を続けていく必要があると思った。

委員 私は地元地域の中学校の統合を考える会であったことを基に意見や考えを述べてきた。基本的には3学級以上の統合に賛成の立場。資料から10年後の令和17年には中学校の生徒数が620人、2校でも1校300人以上となるので、1学年3学級以上が可能である。30年後の令和35年には生徒数が351名、2校とすると1校当たり170人程度となり、1学年60人程度なので2学級が可能である。10年後、令和17年に1校とすると、1学年200人程度で5学級から6学級になり、市内全域から通学するとなると、通学距離も遠くなる。スクールバスの確保が問題になっているので、路線バスやほくほく線、飯山線を含めた列車の利用等も考える必要があると思う。

何よりも子供たち、保護者の要望が生かされる統合になってほしい。それから、市民の方たちには現状がよく分かる資料の提示を丁寧にしていただき、統合の考えが深まるよう対応いただきたい。

委員 子供たちがだんだん減っていく中、統合していくということは賛成である。学校が1か所だと駐車スペースに限られるので、2か所に分けて安全に通えたらいいと思う。また、今はタブレットの活用が充実されてきているので、もし電車を利用して雪で学校に来られないことがあっても、プラス在宅でも可能であれば親も安心できる。そういった意識改革もこれから大切なかなと感じた。細やかな皆さんの意見を聞かせていただき良かったし、子供たちが楽しそうに通えるということを願っている。

委員 回を重ね、皆さん本当にいろんな考えがあると毎回勉強させていただいた。自分の子供たちは、ずっとスクールバスで保育園、小学校、中学校と通っているが、統合再編で中学校が1校になったとすると、やはり遠くからの子は相当大変だと思う。例えば朝バスに乗り遅れてしまった場合、今は学校がそこまで遠くないので送ることができたが、これが遠くなるとどうなるのかという心配もある。オンラインでも対応できると思うが、テストの日とかはどうするのか、そんな心配もあるが、基本的には統合には賛成である。小さい学校なりのいいところもあると思うが、やはり子供が少ないと刺激が足りないのかなという感じがある。これから十日町にすばらしい学校ができることを期待して、ずっと見守り続けたいと思う。

委員 所属する会の会議の中で、このあり方検討委員会の話をさせていただいている。中心部の人は、この問題に関係ないと思っている人もいるが、人ごとではなく子供の数が減っていくということは力を入れて説明させていただいた。また、提言にも出ているが、十日町市教育委員会では閉校という言葉を使っている。しかし、文部科学省では廃校という言葉を使っている。これは、廃れた学校という感じがして、何か悲しいと思ってしまう。言葉の関わりということも感じた。

委員 息子は今大学生で、市外で生活しているが、今でも卒業後は地元で仕事をしたいと考えているようだ。彼を見ていると、小学校のときから地域の老人とのゲートボール交流とか、学校に来てくれたり、地域のソフトボール大会を毎年楽しみにして参加したりしている。

子供たちは、いろんなつながりを持ちながら、ふるさとのことを考えていると思っている。私たちがあえてふるさと教育だとか強く言わなくても、普通に生活していると、そのことはおのずと子供たちの心に入っていくと思っている。そういう意味では子供たちの自由な行動だとか支え合えられるような学校教育だとか地域の教育があればいいと思っている。

委員 私は市のこういった審議会には、何回もいろいろなところで携わらせていただいている。正直、この期間で提言書をまとめるということは、あらかじめ市の決めたレールがあって、その方向に行くと思っていたが、皆さんと議論する中で、この会はそうではないと感じた。もう二、三か月ぐらい期間があれば、もう少し皆さんと議論ができたと思うのが少し心残りではあるが、ひとまずはこういった形で提言ができることは大変喜ばしいことだと思う。残念ながら自分の地域は、小学校も含めた再編について他の地域に比べると熱が冷めていると思うが、こういった活動を通じて、地元の皆さんの気持ちも変わらと思う。

委員 会議を重ねるごとに皆さんが本当に地域の子供のことを思っているいろんな考えを出してくださっているというのが分かりうれしかった。この会議のこと

を保育園の保護者など当事者はもとより、地域の人にもしっかり伝わるようにしてほしいと思う。いろんな不安とか困り感を抱えた子供やおうちの方もいるので、そういった方たちが安心して通えるような学校になるのがいいなと思っている。

委員 自分の地域には、今現在学校は1校しかない。前は3校あった小学校が1校に統合し、中学校も1校であった。その後、中学校の耐震化の関係で立て直すに当たり、今の学校のところに一体型の小中一貫校としてできて今7年目になった。最初は、小中一貫校というものはどういうものか分からず、保護者もかなり反対したが、やはりできてみると、いい学校だったと今は思っている。この提言もなかなか強い反発もあるかもしれないが、やはりこういった形でいい方向に向かってくれればと思っている。

委員 会議の中で話をいろいろお聞きし、また一緒に考えさせていただくに当たって、中学校のあり方検討委員会といっても、これは学校そのもののあり方を検討している会だということがよく分かり、大変勉強になった。学校そのものの目指すべき方向に細やかな意見をいろいろ入れ込んでいただいて、個別最適な学びを大事にすることとか、それから多様な選択肢を用意すること、また一人ひとりのいろいろな子供たちに対して居場所を用意することなど、細やかな内容が盛り込まれたことはとてもよかったと思っている。

1つ心配したのは、中期的な視点に立つところで、10年後には2、3校にということが大分踏み込んだ内容でどのように受け止められるかと思うところだったが、今回生徒数の推移のグラフを出して納得していただきながら、いい方向を目指していけると思う。

委員 生徒数の推移について、減ってきているということは分かっていたが、本当にこんなに減っているということが実感として感じる事ができた。この会に参加して、十日町地域を知ることができたと感じている。一応提言ができて一段落という気もするが、これが本当のスタートで、また次のステップを歩んでいかないと、10年なんてあっという間に過ぎてしまう気がする。この後また大変だと思うが、いろいろ考えていかなければならないと思う。家族に中学生と小学生がいて、本当に1校2校になった際に、通学はどうなるか考えてしまうところだが、いい方向にまた話し合っていけたらと感じた。

委員 提言ができたが、内容的にはファジーな部分もあって、いいのかなと思っている。ただ、これが出た後、どのようなスケジュール感で次のステップがなされるのかというのが非常に気になるところで、スピード感がないと、あっという間に10年ぐらい経ってしまう。ぜひスピード感を持って次のステップを。地域自治組織も自分事として捉えないと駄目なのかなと感じていて、自分たちの地域では、自らの提言をして自分たちで立ち上がるという気持ちで向かうつもりである。自分たちのところに多くの人が出向いてくれるよう

な学校をつくり、地域をつくるのが大事だと思うので、今後も皆さんとこういう会が持てる機会があればありがたいなと思っている。

委員 この会が始まってから、あっという間に1年が終わり、提言が出来上がったわけだが、始まりはこれからだと思っている。子供たちの時間もあっという間に終わってしまうので、この提言ができて、どれぐらいのスピード感を持って新しい学校ができていくのかということを見守っていかれたらと思っている。この会に参加させていただいて、いろんな地域の皆様や学校関係の皆様、教育委員会の皆様のお話を聞けて本当に勉強にさせていただいた。ただ単に大きい学校をつくるだけじゃなくて、施設も充実した、子供たちが何か目標を持って学校に通えるようなところをつくってほしいと願っている。

委員 最初は中学校の統合自体は反対だったが、生徒の減少の推移を表やグラフで見る機会が増えて、自分の子供の長男と末っ子のときで、もう30%ぐらい子供が減っている現実を見たら、一概に反対だなんて言えないと感じた。10年後、自分の子供はまだ中学生だが、そのときにはほかのお母さんたちと一緒に「ああ、よかったね」、子供たちと一緒に「よかったね、こうなって」と言えるような何か足がかりになればいいと思っている。

委員 提言書を読んで、よくまとめていただいたと改めて感じた。委員長はじめ、事務局の皆さん、ご難儀されたと思うが、感謝申し上げたいと思う。毎回毎回たくさんの資料を頂いて、財産、いい持ち物になったなと感じている。学力の向上、いじめ、不登校の減少、特別支援教育の充実を小中一貫教育で挙げているが、この部分の検証をコミュニティ・スクールに携わる身として、本当にうまくできたかどうか、自分自身も少し反省をしているところである。小中一貫教育の成果や検証ってどうだったんだろうか、自問自答しながら考えるところである。これからの新しい中学校のあり方の中にも小中一貫教育やコミュニティ・スクールが生きてくるので、何かいい形でつなぐことができればありがたいと思っている。

副委員長 1年半という長い間、皆さん方と話し合ってきた、その中身的なものは今の提言書の中にすべからく入っていると思っている。

自らの地域の学区に中学校と小学校それぞれの学校が存在しているわけで、これからこの提言書を基に地域がどう考えるか、地域の皆さん、学区全体でどのようにこの地域はやっていくのかを、しっかりと綿密に話し合いをすることが必要だと思っている。

それから先、再編も含めてどのような学校をつくっていくかというのは、やはり学校と地域。地域が先頭でも学校が先頭でもうまくいかないと思う。ただ、教育委員会が中に入っていないと、中身ができないだろうと思うし、もっと真剣に地域の中でこの提言をよく吟味して話し合ってもらうことが一番なのかなと思っている。

我々も1年半かけて提言を出したのだから、誇りと自信を持って、多くの皆さんに読んでいただきたいと思います。委員長をはじめ、事務局の皆様、また25人の委員の皆様が集まって、これだけのものをつくったわけなので、ぜひ皆様もありとあらゆるところに行って、この提言書を披露していただきたいと思っています。

これからのほうが大変だと思うが、地域の学校をより良いものになるよう、皆様からご努力いただければありがたいと思う。

委員長 皆様、ありがとうございます。概ね提言案について、ご賛同いただけているということと、そしてまたこれをどう実現していくかということが一番の皆さんの心配になっているということが共有できたと思う。

ぜひこれを進めていくに当たって、地域の中にきちんと説明に入って、それと同時に地域の方々にもこの提言をたくさん読んでいただいて、現状を分かっていたいただき、どのような方向を目指しているか皆で理解しながら、新しいものをつくっていくということに関して進めていくことにご同意いただけたということが、主な意見であったと思う。

班の中でもまだまだ修正意見がいくつか出たかと思うが、それらも全て取りまとめについては私と事務局のほうに一任して、最後出すということで提言案を提出に結びつけてよろしいでしょうか。

(異議なし)

委員長 ありがとうございます。

では、最後の皆様のご意見も含めて、まとめさせていただく。

事務局 委員長のお話にもあったとおり、グループ内での話し合いでもいくつかご提案、修正の意見等あったと思う。それに関しては、委員長と事務局のほうで精査をさせていただき、修正をさせていただきたい。

また、提言案を十分点検をしたつもりだが、表記のバランスや内容の齟齬などあった場合には、そちらも併せて委員長と事務局のほうで修正をさせていただく。

(3) その他

① 次回会議の開催日・内容について

日程調整表の提出を依頼。後日、次回日程をお知らせする。

② その他

なし

(4) 閉 会